



発行所 日本看護連盟
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
Tel 03-3407-3606 Fax 03-3407-3627
発行人 高原静子

No. 448

2026 年 7 月 27 日 号



自民党看護問題対策議員連盟が 総会と第 1 回勉強会を開催しました

〈POINT〉

- ①国会議員 133 名が出席。2040 年に向けた持続可能な看護提供体制へ「勉強会」がスタート。第 1 回勉強会のテーマは「日本の看護は持続可能か」
- ②「過疎地域等での看護職員の活用推進」「人口減少下における看護の質の向上と教育のあり方検討」の 2 つのプロジェクトチームが始動

●自民党看護連総会・第 1 回勉強会 開催報告

2026 年 7 月 16 日(木)午前 8 時より、参議院議員会館講堂において自民党看護問題対策議員連盟(以下:看護連)の「総会」ならびに「第 1 回勉強会」が開催されました。2040 年を見据えた持続可能な医療・介護提供体制の構築に向け、看護を巡る諸課題や政策の方向性を議論する新たな場として「勉強会」が始動。当日は多数の議員が出席。衆議院・参議院合わせて 133 名の国会議員が出席しました。

【加藤勝信・看護連会長と友納りお・事務局長の挨拶】

第 1 回の「勉強会」に先立ち、「総会」が開催され、看護連会長の加藤勝信衆議院議員が挨拶をしました。

「今回、『骨太の方針 2026』に医療・看護・介護をしっかりと位置づけることができた。今後の大きな課題は、公定価格の引き上げを確実に看護職員の処遇改善へつなげていくこと。昨年の診療報酬改定は第一歩であり、年末の介護・障害福祉サービス報酬改定での取り組みも重要になる。現場は人材不足、夜勤負担、地域偏在、訪問看護体制、ベテランの活

躍など、多くの課題を抱える。全 15 回の勉強会を通じて地域医療における看護の役割の議論を深め、現場で働く看護師の役割と誇りを守るための具体的な政策へとつなげていく」

次に、事務局長で、看護職国会議員・弁護士でもある友納りお参議院議員の挨拶がありました。

「看護職の業務の本質は、①療養上の世話と②診療の補助。医師の指示を受けて幅広く医行為を法律上行えるのは看護師のみであり、極めて高い専門性と責任を担う。また看護職は、24 時間 365 日の医療を支えるため夜勤に従事している。私自身、『夜勤と疲労のメカニズム』の研究をしたが、夜勤が心身に及ぼす健康への影響は計り知れない。命の現場を昼夜問わず支える看護職が、その役割に見合った適正な評価を受けられるよう、理解と支援をお願いしたい」

●2つの新規プロジェクトチーム(PT)が発足

次に、看護連に新規プロジェクトチーム(PT)が設けられることが発表されました。

[過疎地域等での医療確保における看護職員の活用推進 PT]

本 PT は、座長を友納議員が務めます。

「目的」は「医療法等改正に伴う地域医療構想や医師偏在対策が進む中、離島やへき地ではオンライン遠隔医療の進展と共に、現地で患者に寄り添う看護職員の役割がさらに重要となるため、安全で質の高い看護の提供体制の実現に向け施策を検討する」ことです。

「主な検討項目」として、離島・へき地等における医療・看護提供の現状／遠隔医療の進展が現場にもたらす変化／諸外国の実践・制度／看護職員に求められる判断能力・技術／現行制度での課題と対応策などが挙げられています。



[人口減少下における看護の質の向上と教育のあり方検討 PT]

こちらの PT は、座長を看護職国会議員である石田まさひろ参議院議員が務めます。

「目的」は「看護学校受験者の減少や地方での新人看護職員の確保難が、急性期医療の維持に影を落としている。看護職の地域偏在対策と教育改革を抜本的に進めるとともに、基礎教育と生涯教育を一体的に捉えた実践能力向上策を検討する」ことです。

「主な検討項目」として、看護基礎・生涯教育の現状と課題／地域偏在対策のための基礎教育のあり方／今後求められる資質・能力／質の高い教育のあり方などが挙げられています。

●15 回予定されている「勉強会」の始動

「総会」にひきつづき、第 1 回「勉強会」が開催され、冒頭、勉強会に概要について説明がありました。

2040 年に向けて、高齢化の進展と生産年齢人口の減少が同時に進行している中、あらゆる医療・介護提供体制を支える看護職は、人材不足や離職、夜勤負担、地域偏在など現場の深刻な課題に直面しています。

「勉強会」は、今後の看護のあり方を左右する重要な政策課題を体系的に学び、政策提言へとつなげることを目的としています。今後のテーマとしては、①現状と課題の共有／②確保・定着の政策課題整理／③地域包括ケアにおける看護の役割明確化／④看護 DX・役割拡大(特定行為)・教育改革の方向性の議論などが予定されています。全 15 回、1 回 60 分程度実施するとされています。



左から、友納りお議員、石田まさひろ議員、加藤勝信議員

●日本看護協会と厚生労働省からのヒアリング

第1回となる今回は、日本看護協会の秋山智弥会長、厚生労働省医政局看護課の習田由美子課長からヒアリングを行いました。

[看護職が果たしている役割・活動と、現在直面している課題]

日本看護協会の秋山会長からは、「看護職が果たしている役割・活動と、現在直面している課題」が豊富なパワーポイントの資料とともに説明されました。

まず、2040年に向けた日本の看護の将来ビジョンと、その実現に向けた課題について述べられました。急速な少子高齢化により、85歳以上の高齢者が急増し、医療と介護の複合ニーズが高まる一方で、生産年齢人口の減少による看護職の担い手不足が深刻化する中、持続可能な支援体制を築くために、看護教育の4年制大学化や専門性の向上を通じた「質の充実」と、処遇改善や柔軟な働き方による「量の確保」の両立が必要と指摘しました。

また、病院完結型から在宅や地域での生活支援へと看護の場を広げ、ICTやDXを活用した効率的なケアの推進を目指し、最終的に、全世代の健康を支える専門職として、看護職自体のウェルビーイングと社会的地位の向上を急務として掲げました。

[看護を取り巻く現状について]

厚生労働省医政局看護課の習田由美子課長は「看護を取り巻く現状」として、下記のように述べました。

2040年に向け、85歳以上人口の増加に伴い高齢者救急や在宅医療・訪問診療の需要が急増する一方、18歳人口の減少により看護師養成校の受験者数減少や定員割れが進み、将来的な人材不足が懸念されています。

現状の課題として、訪問看護等での高い求人倍率による領域偏在、子育てや介護など、ライフステージに応じた離職、重い夜勤負担が挙げられます。

これに対し、国は「新規養成・復職支援・定着促進」を三本柱とし、①短時間勤務や夜勤選択制など、多様で柔軟な働き方の導入、②ICT・AI等を活用した業務DXによる業務効率化と労働環境改善、③遠隔授業やサテライト化による魅力的な養成環境の整備の3本柱で、質が高く持続可能な看護提供体制の構築に向け、検討会等で総合的な対策を進めています。

●国会議員から出された多くの質問と意見

ヒアリングを受けて参加した国会議員から多くの質問や意見が出されました。主な内容は下記の通りです。

「看護職が専門性を高め、看護師がコア業務に集中できる環境づくりが重要。タスク・シフト／シェアをどのように現場で進め、どのような政策支援が必要なのか」

「1 勤務 16 時間以上の過酷な夜勤がある一方、夜勤手当は 2010 年代からほぼ上がっておらず、志望者減少が懸念される。また、新設された特定行為研修制度の活用状況を聞きたい」

「人材育成・確保の観点から、医療の基礎的な学問部分をコメディカルと合同・統合して教育していくことや、職種ごとの専門性や行動領域を再整理していく考えはあるか」

「訪問看護ステーションにおける DX 支援や連携の仕掛け、看護補助者の診療報酬での賃金引き上げ効果と不足状況、夜勤手当をどの程度まで引き上げれば、看護にとって“魅力的な職場”となるのか、もっと現場の思いを知りたい」

「基礎教育 4 年推進の重要性は理解するが、地方の「5 年一貫校」や「看護学校」の縮小を招き、地方医療が崩壊しないか。看護師不足の主因は養成のあり方か、それとも処遇か」

「潜在看護師の復職を前提に議論してきたが、現行制度への復職支援の反映は十分と言えるか。十分でないとすればその課題・最大のネックは何か」

「在籍中からアプローチをかけ高額な手数料を求める人材派遣・紹介業ビジネスへの規制や対策が必要。公立病院に影響する公務員給与引き上げの評価と、連盟組織率向上への協会の尽力要望」

「医療 DX や機器のデジタル化が進む一方で、病院のセキュリティ対策は脆弱。現場がサイバーハッキングの被害に遭わないための対策や、現場からの懸念の吸い上げ状況について知りたい」

「他職種の経験者が働きながら途中で看護師資格を取りやすくするリカレント教育は今後想定されているのか」

* *

次回の勉強会について日程等がわかりましたら、日本看護連盟ホームページでお知らせする予定です。

→日本看護連盟ホームページ「会長マンスリー」で、
高原静子会長も報告されています。ご覧ください。

<https://kango-renmei.gr.jp/monthly/52481>

